

10日間に10万人が読む雑誌

+plus

経済リポート

2020 12.1 1718号

URL/ www.keizai.info
www.keizai.co.jp

Mail/ info@keizai.co.jp

2020 (令和2) 年 12月1日発行 (毎月1日・10日・20日発行) 1973 (昭和48) 年 7月27日 第三種郵便物認可

広島県東部



三好眼科の外観と三好輝行院長



三好眼科の三好輝行院長

白内障手術件数が7万例に

中四国地方では初めて

全国でも五指に入る快挙

医療法人節和会 三好眼科 (福山市大黒町2-39、電話 084・927・2222) の三好輝行院長(66)は、11月16日に自院での白内障手術件数が7万例に達したことを明らかにした。

1988年に開院して以来、32年間で達した偉業で、中四国地方では初めて、全国的にみても、五指に入るといふ。7万という数字は福山市の人口(約47万人)の7分の1、尾道市の人口(約14万人)の半分に相当する。

この快挙に対し、三好院長は「開院以来、患者様に『見える喜び』を提供するため、懸命に努力してきたつもりですが、患者様との『信頼関係』があったからこそ、今回の手術件数が実現できたと思っています。ありがとうございます。」
三好眼科では現在、多焦点眼内レンズを使用する白内障手術(選定療養含む)が増え、成果をあげているが、三好院長は今後の抱負を含め次のようにコメントした。



手術中の三好院長

「眼内レンズも単焦点のみの時代から、多焦点の時代へと推移し、多様化しております。それに呼応して、患者様の求める術後の視力レベルも上昇しております。7万例はまだまだ通過点。白内障手術は今現在も進歩、進化し続けており、これからも患者様の『見える喜び』に繋がるような眼科医療を提供し続けていく所存です。」

三好院長は米国、欧州、日本白内障屈折手術学会で4回のグランプリを含め計18回受賞するなど、海外での評価も高い。また、手術の際に瞼を開き、「術野の視認性」を向上させ、手術をより安全に行える「開瞼器」や手術器具を独自に考案し、同器具は国内外で使用されている。

なお、三好眼科(6階建て延べ2300㎡)は2016年6月に大規模改装。吹き抜けの天井を採用し、ホテルのロビーのような趣となった待合には、水玉噴水システム「ウォーターパール」を導入したほか、現代の運慶と称される松本明慶・大佛師の「千手千眼観音菩薩像」を配置するなど、陶芸や絵画作品等の美術品約50点を揃え、待ち時間に美術鑑賞が出来るという好評を得ている。

また、今年3月には三好院長が同市東町に松本大仏師の作品約30点を中心に展示する、関係者の宿坊を兼ねた美術館「Premium Guest House and Museum of Art Miyoshi Eye Center」をオープンし、大きな話題を集めた。